令和５年産米の民間在庫量の減少の背景や足元の販売状況について

参考資料3

【出荷段階（集荷団体への聞き取り）】

○　令和５年産の集荷において、生産量の減少に伴い集荷量が減少し、一方で、販売は前年を上回って好調が継続したことから、それとともに在庫量も減少。

○　また、北海道、東北、関東の一部の引き合いが強かった銘柄や、販売が好調であった比較的低価格帯（業務用向け）の銘柄における在庫が大きく減少。

【販売段階（卸売業者への聞き取り）】

○　令和４年産米の持ち越し在庫が少なかった中で、小売向けの販売が一段と好調となったため、手持ち在庫を消化して販売に充てたが、それに対して、令和５年産米の十分な原料手当てができず在庫が減少。

○　令和５年産米の精米歩留まりの低下により、例年より原料玄米の消費が進んだことも在庫減少の要因の一つと考えられる。

○　年明け以降の小売向けの販売好調を受け供給量を増やした結果、昨年より小売向けの在庫ストックが目減り（小売向け在庫比率の減少）。業務用向けの在庫ストックから振り替えて小売向けの供給を維持した。

○　在庫量は前年より少なかったものの、計画的な供給を図ることにより、新米が出回るまでの間何とか供給できる見込みだったが、８月の南海トラフ地震情報等による平年を大きく超える買い込み需要により、スーパー等での欠品が生じるような事態となった。

○　令和６年10月以降、取引先からのオーダーに制限をかけずに販売。一方で、特売を行っても売れ残りが出るなど売れ行きは鈍っており、前年同期を下回って推移。今後は、販売価格の高騰から消費量が減少し、販売は鈍化すると見込んでいる。

【小売段階（スーパー、米穀店の全国団体等への聞き取り）】

○　今回の米の品薄状況については、消費者心理として、全体需給はひっ迫していないといわれても、店頭から消えると不安に感じ買いだめが行われた結果。

○　特に、８月から９月にかけての急激な販売量の増加やそれによる店頭の欠品については、家庭内備蓄の需要もあったが品薄を伝える情報が広まることによる影響が大きかった。毎日一定量を入荷しても開店後すぐに売り切れる状況であった。

○　この仮需の反動で９月後半あたりから販売量は落ちている。価格高騰の影響もあるのではないか。５年産米から1.5倍となった価格が消費者に受け入れられるかは、今後の販売動向を見ないとわからない。

○　米の需給状況（在庫状況や仕入れの見通し等）は、定期的に販売業者にも情報提供してもらいたい。また、勉強会のような情報交換の場などがあれば販売店などにも正確な情報が伝わるし、販売店等を通じて消費者への情報発信も可能になる。

○　自然災害は回避が難しいが、今回の様な騒動はある程度回避できると考えている。農水省の情報発信に期待する。

今般の端境期の米の需要と供給の動向の背景・原因を踏まえた今後の対応

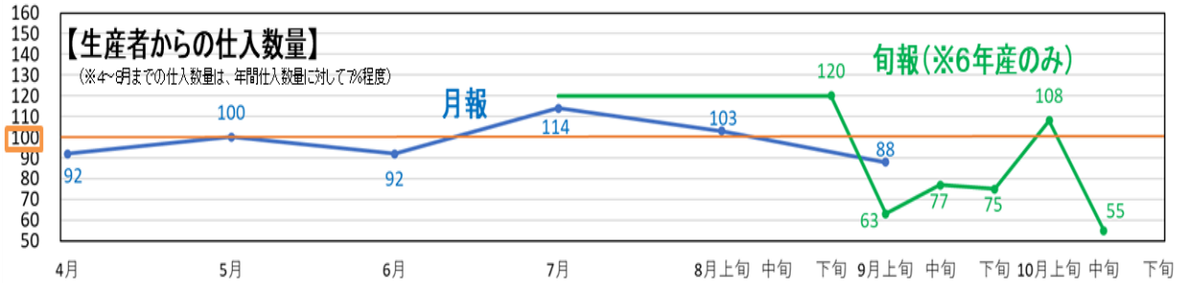
（１）それぞれの流通段階における供給状況（前年同期比）

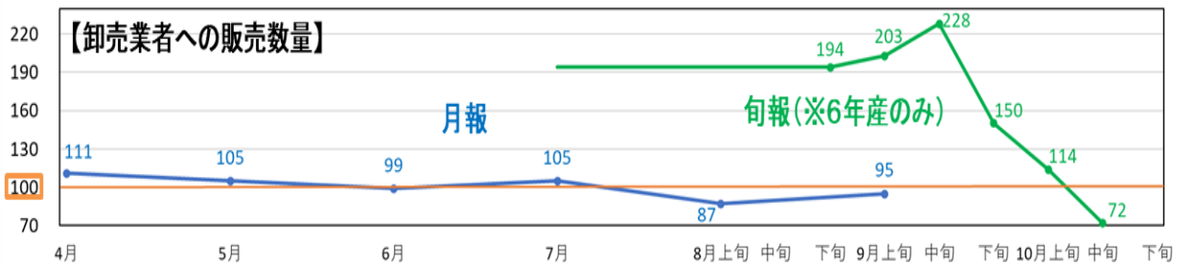
○　一般的に、業務用向けへの米の供給は、古米から新米への切り替え時期が遅く（生産年翌年12月から翌々年３月頃までが多い）、他方、スーパー等の小売向けへの米の供給は、新米が出回るタイミングで古米から切り替わる。

○　各流通段階における供給状況は、集荷段階から小売段階までは、令和６年７月までは、前年同期比で昨年と同程度から昨年以上に供給が行われていた。

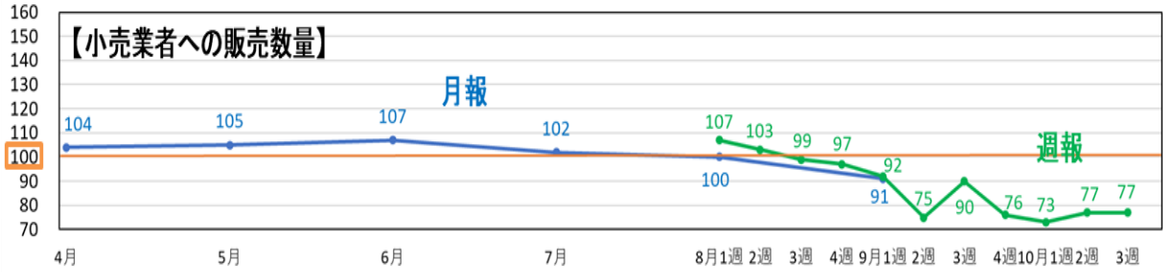
○　そのような中で、８月の南海トラフ地震臨時情報等を受け、小売段階で消費者への販売（消費者の購入）が前年同期比で２割から４割を超えて増加したことから、各流通段階からの供給が追い付かない状況が発生した。

集荷業者

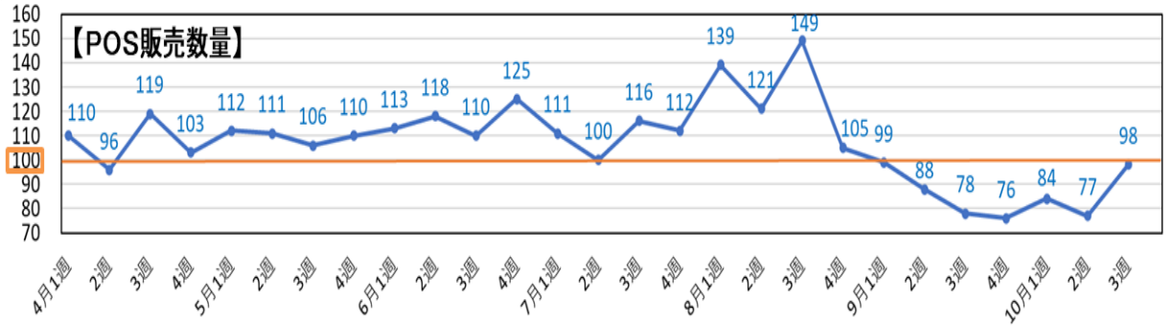




卸売業者



小売業者



※１：生産者等→集荷業者等。月報は500トン以上の集荷業者からの在庫調査結果。旬報は全国集荷団体から聞き取りによる。
※２：集荷業者等→卸売業者等。月報は500トン以上の集荷業者からの在庫調査結果。旬報は全国集荷団体から聞き取りによる。
※３：卸売業者等→小売業者等。月報は５万トン以上の卸売業者(30社)からの販売動向調査結果。週報は大手卸売業者(10社)からの聞き取りによる。
※４：小売業者等→消費者。ＰＯＳ販売数量は(株)KSP-SPが提供するＰＯＳデータ（全国約1,000店舗が対象）による。

（２）米の円滑な流通に関する取組状況

		令和6年3月	4～6月	7月	8月	9月
情報収集・発信	通常の取組	3月5日食糧部会 〔基本指針の見直し〕		7月30日食糧部会 〔基本指針の策定〕		
		「米に関するマンスリーレポート」による情報提供（毎月1回） 〔全国の需給見通しや在庫量等の他、産地・銘柄別の価格動向、都道府県別の民間在庫量、消費動向などのデータを掲載〕				
	今般の特別な取組					卸売業者へ調査報告依頼 〔卸売業者へ令和6年7月下旬以降の米の仕入れや販売状況等について，週単位で調査報告を依頼〕
						農水省HPにて情報提供 〔米の需給の現状についてデータを整理・公表〕
新米の出回り				新米の出回り 新米が８月頃から徐々に出回り始め、９月から本格的に出回り（平年より1週間程度収穫が早い）		
関係団体との意見交換・働きかけ		5年産、6年産の流通の円滑化に関するヒアリング・働きかけ				
			◆　集荷業者、卸売業者等に対して定期的にヒアリングを実施 （令和6年4月以降　生産者団体：21回、卸売業者等：58回、小売業者等：20回、加工用米関係者：15回） 〔生産者団体：10回 卸売業者等：9回 小売業者等：10回 加工用米関係者：10回〕	〔生産者団体：2回 卸売業者等：8回 小売業者等：4回 加工用米関係者：2回〕	〔生産者団体：1回 卸売業者等：17回 小売業者等：5回 加工用米関係者：3回〕 ◆　8月27日要請 生産者団体、卸売業者等に対して、主食用米の円滑な流通に関して要請	〔生産者団体：8回 卸売業者等：24回 小売業者等：1回〕 ◆　9月6日要請 生産者団体、卸売業者等に対して、主食用米の集荷・販売等への一層の対応について改めて要請
		6年産の需要に応じた生産の働きかけ				
		◆　全国会議（令和5年9月～計5回） ◆　生産者、県農業再生協議会、地域農業再生協議会等に対して、産地ごとの意見交換（キャラバン）を実施 ◆　生産者団体や地方自治体とも連携し、県農業再生協議会やJA以外の幅広い集荷業者や農業法人等に対してもキャラバンを実施 （令和5年9月～令和6年8月：4,244回）				

（３）今後の対応

① 分析で明らかになったこと

- 各流通段階における供給状況は、昨年と同程度から昨年以上に供給が行われていたが、８月の南海トラフ地震臨時情報等を受けた買い込み需要に各流通段階からの供給が追い付かない状況が発生した。
- 今年の春以降から情報収集や働きかけは行っていたが、品薄に関しての特別な情報発信や流通関係者への働きかけは品薄状況が顕在化した８月下旬からの取組となった。
- 在庫量に占める業務用向けと小売向けとの比率は卸売業者によって大きく異なり、端境期において、必ずしも小売向けの比率が少なかった卸売業者だけではなかった。また、業務用向けの契約分を取り崩して小売向けに販売を行った卸売業者も存在。

② 分析を受けた今後の対応

- **主要集荷業者・卸売業者に対する端境期前（６月以降）から端境期（９月中旬）までの集荷量、販売量、在庫量の週次調査の実施**
- **卸売業者等やスーパー・米穀店等への流通実態に関する定期的なヒアリング**
- **米の流通の現状のポイントをまとめて発信するなど消費者にもわかりやすい情報発信**
- **米の需給に関する基本的な情報についての月例記者ブリーフィングの開催**